芸　　術

1　学習指導と評価の改善・充実

～豊かな人間性と感性を高める指導の工夫～

(1) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるための指導と評価の工夫

一人一人の子どもが人間として成長・発展していく過程を大切にしながら、豊かな人生を形成していくために、想像力を働かせて自分の思いをかたちにしていくことが重要である。そのため、生徒が表現する楽しさや喜びを味わうことを通して、生涯にわたって音楽や美術、工芸、書道に親しむ態度を育成することが大切である。

このように、豊かな人間性をはぐくみ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育成するためには、調和のとれた資質や能力の育成を図り、知覚し感じ取る力、批評する力、構想する力、人間関係を構築する力などを高めることが重要である。

このため、各学校において、芸術科における題材の指導計画を作成する際には、４つの観点からそのねらいを整理するとともに、それぞれの観点で示された資質や能力が育成されるように、具体的な指導内容や指導方法等を検討することが必要である。

また、各科目の評価の観点の趣旨を踏まえ、生徒の実態や学習内容に合わせた観点別の評価規準を作成し、評価の客観性と信頼性を高めるとともに、生徒の学習意欲を高めるための評価方法を改善し、評価の一層の充実を図ることが大切である。

＜芸術のⅡを付した各科目の評価の観点の趣旨＞

	関心･意欲･態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
音楽Ⅱ	音楽を愛好し、音楽文化に関心をもち、個性豊かに意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、個性豊かに創造的な表現をするための技能を身に付けている。	音楽文化に対する理解を深め、そのよさや美しさを主体的に味わう。
美術Ⅱ	美術を愛好し、美術文化に関心をもち、個性豊かに意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに発想し創造的に表現を工夫する。	個性豊かに創造的な表現をするために材料・技法を活用して表現する技能を身に付けている。	心豊かな生き方の創造にかかわる美術の働きや美術文化などを理解し、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。
書道Ⅱ	書を愛好し、書の文化や伝統について関心をもち、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、喜びを味わおうとする。	感性を働かせて書のよさや美しさを感じ取り、感興や意図に応じて素材を選定し、個性豊かで創造的に表現を工夫する。	個性豊かに創造的な表現をするために、様々な形式に応じて表現する技能を身に付けている。	書の美の諸要素を把握し、書の現代的意義や日本及び中国等の書の歴史・文化などを理解し、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。

（「芸術のⅠを付した各科目の評価の観点の趣旨」については平成17年度高等学校教育課程編成・実施の手引参照）

(2) 「Ｂ鑑賞」の指導の充実

芸術科の評価の観点にある「鑑賞の能力」とは、「芸術的な感受や表現の工夫」の能力を生かしながら、芸術作品や文化遺産、芸術的環境、芸術的行為、活動等がもっているよさや美しさ、雰囲気などを味わい、また芸術文化にかかわる様々な理解や共感をしたりする能力のことである。同じ鑑賞でも視覚や触覚により実体化している作品を鑑賞する美術、工芸、書道と、聴覚を通して実体化していない作品を聴取する音楽の鑑賞とでは、その在り方は異なっている。しかしながら、対象のよさや美しさ、イメージや作者の表現意図や心を感じ取ろうとすることなど、芸術にかかわる理解を深めることについては共通している。そのことは自分なりの意味、新しい美、自分を発見することにつながるものでもある。

このように豊かな感性を高め生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てるために、鑑賞の能力の育成は不可欠であるが、各科においては、「Ｂ鑑賞」の指導事項の中でも特に次のような課題に配慮して鑑賞指導の充実を図る必要がある。

＜鑑賞指導充実のための課題＞

音楽	我が国の伝統音楽を含めた多様な音楽文化に対して、それぞれの価値を感じたり、批評したりすることのできるような力の育成を図ること。
美術 工芸	我が国及び諸外国の美術文化や表現の特質などについての関心や、理解、作品の見方を深める鑑賞指導の充実を図ること。
書道	日本及び中国の書の文化や表現の特質などについて関心や理解、作品の見方を深める鑑賞指導の充実を図ること。

また、鑑賞を独立したものとして扱うだけでなく、表現活動と鑑賞の能力を相互に高めるために「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」を関連付けた指導を一層充実させることが大切である。表現と鑑賞が相互に働きあう中で、作品をつくるという造形的な視点に立って思考を深めさせるといった各題材での学習のねらいが実現できるよう、指導の改善を図る必要がある。

＜「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の関連を図った指導の具体例＞

音楽	○様々な国の音階を使って創作をする。 『てぃんさぐぬ花』（琉球音階）、『南部牛追歌』（都節音階）、ブラームス『ハンガリー舞曲第５番』（ジプシー音階）、『アリラン』（５音音階）等を鑑賞し、各楽曲が持つ雰囲気を含め、演奏上の効果や歴史的背景を調べワークシートにまとめる。 音階の構成音を、リコーダーで練習する。各自音階を決めリコーダーで８小節程度の曲を創作し発表する。
美術 工芸	○『マグリットの新作を描く』 シュールレアリスムの概念を学びながら作品鑑賞力を高め、シュールレアリスム風の絵画作品を制作させる。 ○『日常のデザイン再発見』 身近にある有名な工業製品を選び、なぜデザイン的に優れているのか、好まれているかなどを考察し、写真や文章により資料を作成してまとめ、発表する。
書道	○『古典研究』 自ら臨書表現の題材として選んだ古典作品の書かれた時代背景や人物などを調べて、書風との関連、造形や線質など表現の工夫や技能についても考察しながら発表する。 ○『課題研究』 表具、文房四宝、町の看板文字など、書に関わる文化や日常生活との関わりについて、グループごとに課題を設定して調べる。

2　「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～「音楽」の指導と評価の一体化を進める取組～

(1) 評価計画表の例

科目名	音楽Ⅰ			
単元名	歌唱　（日本の声と歌）			
単元の目標	(1) 日本の歌をきっかけに様々な日本人の考え方、言葉の美しさを学ぶ。 (2) 異なる発声法を学び、楽曲の構造的な側面を理解し、曲想や美しさを感じ取る。 (3) 体験から感じ取ったことを表現し、楽しさや喜びを共有する。			
評価の観点	関心・意欲・態度〔観点Ⅰ〕	芸術的な感受や表現の工夫〔観点Ⅱ〕	創造的な表現の技能〔観点Ⅲ〕	鑑賞の能力〔観点Ⅳ〕
内容のまとまりごとの評価規準	曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心を持ち、意欲的、主体的に歌唱表現し、その喜びを味わおうとする。	音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に歌唱表現するための技能を身に付けている。	様々なジャンルの楽曲が持つ特徴的な歌唱表現、歴史的背景を理解して楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを味わう。
評価規準の具体例	①歌詞に込められた意味や背景、ストーリー性など、作詞者・作曲者の思いに関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ②発声をするための姿勢ができている。 ③腹式呼吸の基本を理解しようとしている。	①曲の歌いまわしや表現の違いに気付き、表現の工夫をしている。 ②母音の頻度によって、曲想が違ってくることを感じ取っている。 ③日本語のリズミカルな語感を感じ取っている。 ④曲種に応じた発声を工夫している。	①音高によって共鳴の場所を変化させる技能を身に付け表現している。 ②地声や裏声の響きの違いや特徴をつかみ、創造的に表現する技能を身に付けている。 ③言葉が持つリズムやアクセントを生かして個性豊かな表現を創る技能を身に付けている。 ④曲種によって異なる発声の技能を身に付けている。	①歌詞の意味や歴史的な背景を踏まえながら、楽曲全体を聴き取っている。 ②自分たちの発表を客観的に聴くことができる。 ③他のグループの演奏を聴き、表現上の効果的な点を見つけることができる。

題材（時間）	学習内容	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ	評価方法
鑑賞 （1）	○「上を向いて歩こう」「この道」「夏の思い出」「ソーラン節」「長唄～越後獅子」を鑑賞し、楽曲の特徴と背景を理解するとともに、音楽用語を用いて学習ノートにまとめる。	①	③		①	観察法 学習ノート①
表現 （3）	○グループごとにジャンルを選び、発声練習法を工夫する。 ○楽曲の語感を感じ取り、表現を工夫して練習し、学習ノートに記入する。	② ③	① ②	① ③		観察法 学習ノート②
発表 （1）	○発表する上で、工夫したところ、苦労したところ、また他のグループとの比較などを学習ノートに記入する。		④	② ④	② ③	演奏 観察法 学習ノート③

音楽　学習ノート　①		
６月　２０日（金）	*1*年　*3*組　*１３*番	氏名　*○○　○○*
研究欄には、曲の背景の他に、聴いた「イメージ」や「特徴」を自分が知っている音楽用語をできるだけ使って書きましょう。		
曲名（　*ソーラン節*　）作詞者（　*作詞者不詳*　）作曲者（　*北海道民謡*　）		
「研究」 *北海道に残るニシン漁の作業歌。「ヤーレン、ソーラン～」とかけ声がかかるところからこの名がついた。危険で大変な漁を漁師さんたちがみんなで歌いながら力を合わせて頑張っていた様子が想像できた。ベルカント唱法と違い、喉をしめて発声しているようだ。*		

音楽　学習ノート　②		
６月　２４日（火）	*1*年　*4*組　*３２*番	氏名　*○○　○○*
研究欄には、自分たちがその曲を選択した理由、また、発声練習で工夫した点を書きましょう。		
グループ氏名（　*○○○○、○○○○、○○○○、○○○○*　）		
曲名（　*上を向いて歩こう*　） 「研究」 *この歌が好きだったので。発声練習は「ドミソミド～」を「ア」で半音ずつ上げていった。*		

音楽　学習ノート　③		
６月　２７日（金）	*1*年　*2*組　*9*番	氏名　*○○　○○*
感想欄には、その曲の曲想に合った発声法が使われているか、工夫されている点はどこか聴き取り書きましょう。		
グループ氏名（　*○○○○、○○○○、○○○○、○○○○、○○○○*　）		
曲名（　*夏の思い出*　） 「感想」 *きれいだった。５人の発声がそろっていた。「水芭蕉の花が咲いている」のところは「花」という言葉が強調されているように歌っていた。最後の「はるかな尾瀬」のところは一番盛り上がっていた。「遠い空」は落ち着いた感じが伝わってきた。*		

(2) 評価方法の具体例

本単元では、学習ノートを次のように評価する。

学習ノート①　曲に対する理解が単なる解説の羅列にとどまらず、その歌が歌われていた場面を想像するところまで深まっている。また、唱法に着眼し、民謡の特徴を見極めている。

評価Ａ

学習ノート②　選曲に対する理由が明確ではない。発声練習方法がごくオーソドックスであり、ポピュラーソングを歌う上での工夫が見られない。

評価Ｂ

学習ノート③　曲にふさわしい発声に着眼している。また、歌詞の意味をよく考えながら鑑賞している。発表者が工夫したところをよくとらえて、自分の言葉で表現している。

評価Ａ

3　「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～「美術」の指導と評価の一体化を進める取組～

(1) 評価計画表の例

科目名	美術Ⅰ			
単元名	映像メディア表現及び鑑賞　「パラパラ漫画の制作」			
単元の目標	(1) パラパラ漫画の制作を通して映像メディア表現の特性や仕組みを理解する。 (2) 色と形の変化を主題とし、表現の構想や編集を工夫しながら色と形による視覚的な伝達効果を考え「動き」を創造的に表現する。 (3) 作品の鑑賞から、お互いのよいところを感じ取り、意欲的・主体的にその美しさを味わう。			
評価の観点	関心・意欲・態度〔観点Ⅰ〕	芸術的な感受や表現の工夫〔観点Ⅱ〕	創造的な表現の技能〔観点Ⅲ〕	鑑賞の能力〔観点Ⅳ〕
内容のまとまりごとの評価規準	映像メディア表現の多様な表現に関心をもち、自らが感じ取ったことや、見いだした価値を他者に伝えるなど、意欲的・主体的に表現に取り組み、その喜びを味わおうとする。	感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、美術作品などの良さや美しさを感じ取り、映像メディア表現の特性について理解し、意図に応じた表現の工夫をする。	映像メディア教材の基本的な使い方や生かし方の技能を高め、表現意図に沿って、創造的に表現する。	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然の中に働く美術の意識や価値、日本の美術の特質などを感じ取り、理解し、映像機器や情報通信ネットワークなども活用して理解を深め、美術作品の良さや美しさを創造的に味わう。
評価規準の具体例	①情報の伝達・交流における造形の役割をとらえ、生活に生かそうとする。 ②価値や情報を他者に伝え、交流し、分かち合い、人間関係をより広く形成しようとする。 ③楽しく創造力豊かな主題を生成しようとする。	①主題の生成から交流までの、全過程にわたって、美しさや人々の心を感じ取り創意工夫する。 ②感性を働かせて対象や様子などをよく見つめ、よさや美しさを感じ取り、表現を構想する。 ③他者に伝達し、交流し合い、理解や人間関係を広げあうための編集を工夫する。	①主題に合った資料を選択し、意図に応じて資料を加工構成する。 ②主題を大切にし、新鮮な発想、効果的な編集により、美しく表現する。	①作品の良さや美しさを深く味わい、題材のとらえ方や表現の仕方のよさを感じ取る。 ②表現のよさや作品の美しさに対し自己の意見を述べることができる。

題材（時間）	学習内容	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ	評価方法
導入（1）	○作家による作品を鑑賞し、「動き」の表現の可能性を発見する。 ○本単元の内容を理解する。	①			①	観察
アイデアスケッチ（2）	○色彩と形の動きを考えながらワークシートにアイデアスケッチを行う。	③	① ② ③	①		ワークシート（アイデアスケッチ）
着採・製本（6）	○カードに着彩する。 ○出来上がったカードを製本する。			②		パラパラ漫画
鑑賞とまとめ（1）	○他者の作品を鑑賞し、感じたことを鑑賞カードにまとめる。 ○パソコンにより動画処理を行った作品（数点）を鑑賞し、アニメーションの仕組みを理解する。	② ①			① ②	鑑賞カード

(2)　評価方法の具体例

本単元では、次の方法で具体的に評価する。

ア　ワークシート（アイデアスケッチ）による評価方法

パラパラ漫画を理解し、「動き」の表現と色彩の変化を考慮したアイデアを考える。

イ　パラパラ漫画による評価方法

(ｱ) 主題を大切にし、新鮮な発想で効果的な編集により、カードに描かれた形がスムーズな動きとなるように工夫する。

(ｲ) 色彩の持つ機能や効果を考えながら、作者の意図に応じた制作の方法を工夫し、色彩が美しく変化するように表現する。

ウ　ワークシート（鑑賞カード）による評価方法

「動き」の表現や色彩の変化する美しさなどを深く味わい、題材のとらえ方や表現のよさを感じとり、自己の意見をまとめる。

＜ワークシート、パラパラ漫画制作の具体例＞

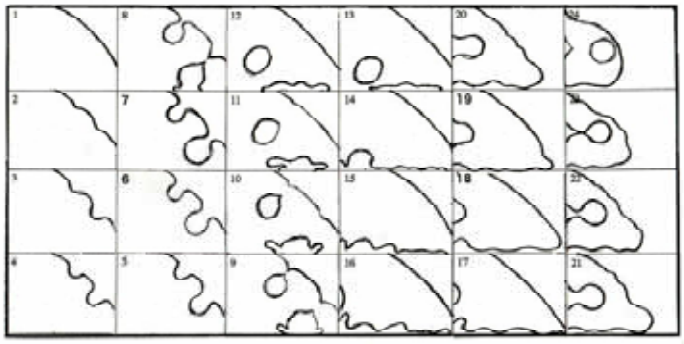
●ワークシート（アイデアスケッチ）

MOVING　COLOR～パラパラ漫画を作ろう（制作時間６時間）

１年○組○○番　氏名○○○○

1　色と形をテーマにパラパラ漫画を制作しなさい。
2　色の変化（と形の動き）を表現しなさい。
3　動きや変化を工夫すること。
4　ストーリー性は必要ありません。単純に動きを表現しなさい。
5　着採については、アクリルガッシュを使用しなさい。塗り方は（べた塗り、ぼかし、にじみ）など自由とします。

アイデアスケッチ



▲　スムーズな動きとなるように中割（最初に奇数ページのカードを描いた後、前後のページのカードを描く）の技法を用いながら、全体の流れを考慮してアイデアスケッチを行う。

●鑑賞カード

【鑑賞カード】　　**1年○組○番　氏名○○○○**

私が選んだベスト３

第１位　１年○組○番　作者氏名○○○○　作品名○○○○○

（理由）*変化する形がとてもユニークでよく考えられています。また、彩色が非常に繊細で、色の表現が本当にきれいだと思いました。*

第２位　１年○組○番　作者氏名○○○○　作品名○○○○○

（理由）*青系の色調に統一したところが全体の神秘的なイメージにつながっていると思いました。*

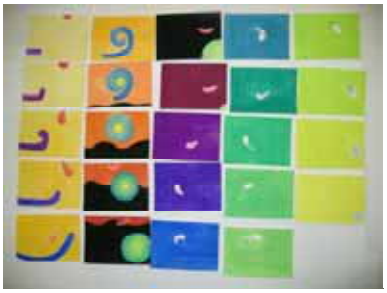
第３位　１年○組○番　作者氏名○○○○　作品名○○○○○

（理由）*こんなに激しく形が変化するとはびっくり。この続きがあったら是非見たいと思わせる作品です。*

●制作の様子

①描いた形がスムーズに動くかを確認しながら進める。

②色相環など色彩についての学習を応用しながら配色を決めていく。



③出来上がった２４枚のカード。

④お互いの作品を鑑賞する生徒。映像メディア表現の題材だが、機材の必要もなくどこでも手軽に動画が楽しめる。

4　「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～「書道」の指導と評価の一体化を進める取組～

(1)　評価計画表の例

科目名	書道Ⅰ			
単元名	顔真卿と褚遂良（鑑賞と表現）			
単元の目標	(1) 古典の鑑賞を通し、鑑賞で得た感興をもとに創造的な表現を工夫する。 (2) 古典に基づく基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆との関係を理解し、他の文言に応用して表現することができる。 (3) 字形の構成や、全体の構成に工夫して作品にまとめることができる。			
評価の観点	関心・意欲・態度〔観点Ⅰ〕	芸術的な感受や表現の工夫〔観点Ⅱ〕	創造的な表現の技能〔観点Ⅲ〕	鑑賞の能力〔観点Ⅳ〕
内容のまとまりごとの評価規準	古典の鑑賞と表現活動を通して、多様な書表現に関心を持ち、意欲的、主体的に活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて、顔真卿や褚遂良の書のよさや美しさを感じ取り、創造的な表現を工夫する。	書写能力を高め、用具・用材を生かし、芸術的な表現の基礎的な技能を身に付けている。	作品を客観的に観察し、より良い表現を追究しながら、書のよさや美しさを深く味わう。
評価規準の具体例	①それぞれの古典を理解し、その特徴を自分の言葉で表現しようとする。 ②基礎的な事項を理解し、自ら表現活動を楽しんで行おうとする。 ③意欲的、主体的な活動を通して表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わおうとする。	①用筆法の違いによって線質や表現が変わることを理解し、表現を工夫している。 ②それぞれの古典の特徴を捉えて書こうとしている。	①特徴的な線質など表現の基本を理解している。 ②意図した表現に応じた形式と表し方を理解し、目的や用途に即して表現する技能を身に付けている。	①古典に対する印象を大切にし、そのよさを味わう。 ②鑑賞と表現が相互に関連していることを理解し、書のよさや美しさを感じ取る。

時間	学習内容	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	観点Ⅳ	評価方法
1・2	○顔真卿と褚遂良の書を鑑賞し、鑑賞文を書く。 ○名筆の鑑賞を通して、毛筆の表現の多様性を学ぶ。	①			①	鑑賞カード
3・4	○建中帖の臨書を通して特徴的な用筆法を学ぶ。 ○太い点画を基調とした重厚な線と向勢のどっしりとした字形を学ぶ。	②	①	①		観察・作品Ⅰ
5・6	○雁塔聖教序の臨書を通して運筆の変化を学ぶ。 ○筆の弾力を生かした軽快な筆使いを学ぶ。	②	①	①		観察・作品Ⅱ
7・8	○顔法と褚法のいずれかを選択し、その筆法を用いて顔真卿、褚遂良の作品や人柄から受けるイメージを表現した短文を書く。	③	②	②	②	観察・学習カード・作品Ⅲ

(2) 評価方法の具体例

本単元では、次の方法で具体的に評価する。

ア　鑑賞カードによる評価方法

それぞれの古典の歴史的背景や筆者の人となりを学習する中で、作品と筆者から感じられるイメージを自分なりにまとめた記述がなされている。

イ　作品Ⅰ・Ⅱ・Ⅲによる評価方法

(ｱ) 顔法、褚法それぞれの筆使いができている。（作品Ⅰ・Ⅱ）

(イ) 選択した古典の特徴を生かし、紙面構成に配慮しながら意欲的に言葉を表現できている。（作品Ⅲ）

ウ　学習カードによる評価方法

選択した古典に対する印象を効果的に表現した意欲的な記述と表現の工夫が見られる。

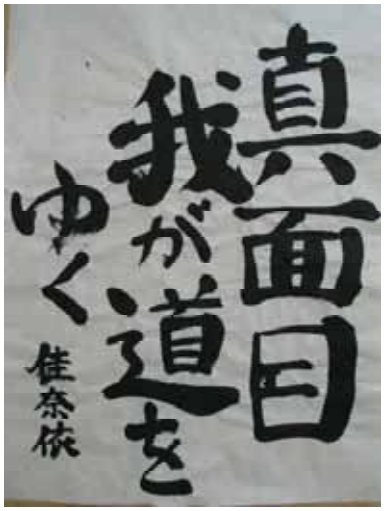
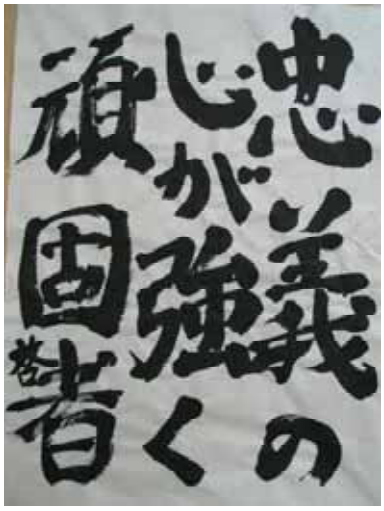
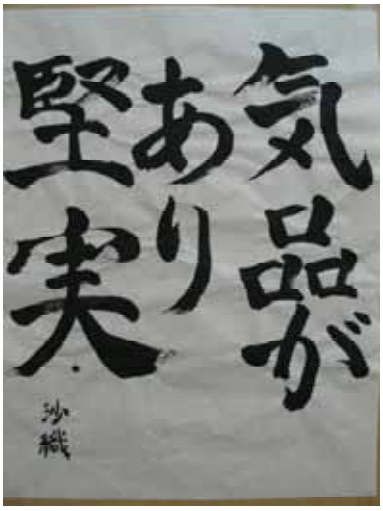
<鑑賞カードの具体例>

鑑賞カード　　顔真卿と褚遂良　　1年○組　氏名○○○○○

	人物・人柄・時代背景	作品	
		建中告身帖	その他（争坐位稿）
顔真卿 709～785	唐の四大家。家系は学者や能書家を多く輩出。玄宗帝・代宗・徳宗の３人の皇帝に仕える。玄宗皇帝時代の『安史の乱』で一族とともに活躍。唐代屈指の名臣。 王羲之の流麗な書に反発。 ○忠言が多く疎まれ、何度も地方へ左遷される。	*建中元年（780）72歳の作品。皇太子の教育係の職に就く時の告身（辞令書）を自身が書いたもの。 向勢の字形、太い点画で雄大・重厚、力強く男性的な書。*	*56歳の時に書いた手紙。 百官集会で席次を乱した人への抗議文。草稿なので気取りがなく、感情がそのまま出ている率意の書。*
	作品や人柄から受けた印象	*太くて力強い線で読みやすい。正義感が強く、曲がったことが嫌いな人。*	
	人物・人柄・時代背景	作品	
		雁塔聖教序	その他（枯樹賦）
褚遂良 596～658	初唐の三大家。太宗皇帝のもとで王羲之書の鑑定にかかわる。父親の友人、欧陽詢が師。太宗と高宗に仕える。高宗が則天武后を皇后にすることを諫めたため、愛州（ベトナム）へ左遷。 ○品行方正で実直、皇帝に高い信頼を得る。	*653年58歳の作品。玄奘法師がインドから持ち帰った仏典を漢訳した大事業をたたえて刻され、長安の慈恩寺大雁塔に安置された。 筆の弾力を生かした軽快な筆使い。*	*北周の庾信の賦を書いたもの。 35歳の時に書かれ、筆勢が伸びやかで趣に富んだ書。*
	作品や人柄から受けた印象	*線は細いがしなやかで強さも感じる軽快な書。実直で自分に厳しい感じの人。*	

<学習カードの具体例>

学習カード　　古典の特徴をとらえて書こう　　*1*年△組　氏名△△△△△

選択した古典	*建　中　告　身　帖*
作品からイメージした言葉	*忠義の心が強く、頑固者*
どのように書くか	*力強くのびのびと書く。横画と縦画の太さを変化させ、縦画が太く見えるようにする。*
自己評価（意識した点・工夫したところ）	
どっしり見えるように筆を立てて力強く書いた。横画が細くできたので、縦画を強調できたと思う。 ひらがなは漢字よりも難しかったが、太く書いて弱く見えないようにした。 最後の「頑固者」が少しかすれたが、勢いが表現できたように思う。	

<作品Ⅲの具体例>